

1. 背景

- 「温泉資源の保護に関するガイドライン」は、平成19年の中央環境審議会自然環境部会温泉小委員会（答申）を踏まえ、平成21年に作成。
- 5年を目途に点検・見直しを行うこととされており、平成26年、令和2年に改訂。前回改訂から5年が経過したことから、専門家による検討会において点検を行い、必要な改訂を行う。

2. 改訂に向けた検討の視点

- 最新の科学的知見や具体的な取組事例を盛り込むとともに、現に事務処理の現場で問題になっている部分を詳述することで、都道府県の担当者の参考資料として使いやすいものとする。

3. 改訂スケジュール

- 令和6年4月～ 都道府県アンケート調査、有識者ヒアリング
- 令和6年9月 温泉小委員会（第20回） 改訂の進め方
- 令和7年2月 温泉小委員会（第21回） 改訂の論点整理
- 令和7年7月～10月 温泉資源保護ガイドライン検討会（計3回） ※詳細は参考参照
- 令和7年10月29日～11月27日 パブリックコメント
- 令和7年12月15日 温泉小委員会（第22回） 改訂案の検討
- 令和7年12月中（予定） 改訂版の公表、都道府県へ通知

温泉資源の保護に関するガイドライン（案）の改訂のポイント



1. 参考事例の追加

- 温泉モニタリング等の科学的知見に基づく新たな**保護地区の設定事例**を追加
- 源泉所有者や温泉利用者等の多様な主体による**温泉モニタリングの取組事例**を追加
- 調査事例が少ない**大深度掘削泉に関するモニタリング事例**を追加
- 一般的な揚湯試験の実施が困難な状況に対応する**揚湯試験事例**の追加

2. 参考情報の充実

- **温泉の湧出機構のイメージ図の更新、地下水の基本概念図**の追加
- 源泉の最大限汲み上げ可能な量、安定的に汲み上げられる量、動力申請者が施設運営のために必要とする揚湯量との関係性を追加
- 持続的に安定して採取可能な温泉の量を検討するための**揚湯試験結果（関係図）の解釈**を追加
- 適切な動力ポンプの選定するために使用される**ポンプ性能曲線の見方**を追加
- **温泉井戸の基本的な構造**と温泉井戸に起こる**障害**のイメージを追加
- **事業性が高い温泉発電を実施するための条件**や、稼働状況等の把握の重要性を追記
- 動力、BOP（噴出防止装置）等の**基礎的な用語解説**を追記

3. 都道府県からの意見を踏まえた記載の追加

- 「可燃性天然ガスの噴出のおそれ」の判断の参考となる文献や考え方を追記
- 未利用源泉における指導の在り方を追記

(参考) 温泉資源保護ガイドライン検討会の概要



目的

- 温泉資源の保護に関するガイドラインについて総点検を行うとともに、新たに盛り込むべき事項や観測・調査・解析方法等について専門的な検討を行う。

検討委員

区分	氏名	所属・役職
検討委員（座長）	板寺 一洋	神奈川県温泉地学研究所 専門研究員
検討委員	赤上 直人	群馬県健康福祉部薬務課 課長
検討委員	交告 尚史	法政大学専門職大学院法務研究科 教授
検討委員	斎藤 雅樹	東海大学人文学部 学部長・教授
検討委員	清水 恵介	日本大学法学部法律学科 教授
検討委員	鈴木 隆広	地方独立行政法人北海道立総合研究機構産業技術環境研究本部 エネルギー・環境・地質研究所資源エネルギー部 部長
検討委員	鈴木 秀和	駒澤大学文学部地理学科地域環境研究専攻 教授
オブザーバー	迫田 豊秋	鹿児島県保健福祉部生活衛生課 課長

検討スケジュール

- ・令和7年7月 温泉資源保護ガイドライン検討会（第1回）改訂の論点整理
- ・令和7年9月 温泉資源保護ガイドライン検討会（第2回）改訂素案の検討
※都道府県に「改訂素案」の意見照会
- ・令和7年10月 温泉資源保護ガイドライン検討会（第3回）改訂案の検討